



町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト特集

住み慣れたわが家で自分らしく生きたい

～町田市みんなで支える在宅療養～

☎高齢者福祉課 ☎724・2140



親も高齢になってきたけれど、医療や介護が必要な状態になっても、自宅で生活できるのかしら？

私たち、医療・介護のプロフェッショナルが連携して支えます!!



市が2016年度に実施した市民ニーズ調査では、約7割の方が、高齢者になり医療や介護が必要になっても、医療や介護のサービスを受けながら住み慣れた自宅で過ごす「在宅療養」を希望しています。一方で、半数以上の方が家族の負担などの不安を感じていると回答しています。

市では、そのような不安を軽減するため、医療・介護の専門職が連携して本人や家族に寄り添いながら支えていけるように取り組んでいます。今回はその取り組みを支えるメンバーやサービスの一部を紹介します!

かかりつけ医



健康について何でも相談できる身近な医師。必要に応じて専門医を紹介します。

訪問歯科



歯科医師が自宅を訪問し、虫歯の治療や入れ歯の調整などを行います。

訪問薬剤師



薬剤師が自宅を訪問し、飲み忘れや飲みにくいなど、薬についての相談に応じます。

訪問看護



医師の指示に基づき、看護師が自宅を訪問し、医療処置などを行います。

福祉用具・住宅改修



車いすや介護用ベッドなどのレンタル・購入、手すりの設置などができます。

訪問リハビリテーション



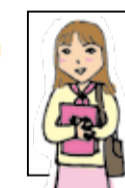
理学療法士や作業療法士などが自宅を訪問し、リハビリテーションを行います。

高齢者支援センター



高齢者のための総合相談窓口。医療や介護に関する相談に応じます。

介護支援専門員(ケアマネジャー)



在宅療養生活を支えるコーディネーター。介護のサービスを調整します。

訪問介護(ヘルパー)



ヘルパーが自宅を訪問し、生活を支える身体的なケアや、家事などを援助するサービスを行います。

もっと詳しく知りたい方は...

高齢者福祉課(市庁舎1階)やお住まいの地域の各高齢者支援センター・各あんしん相談室で配布している在宅療養ガイドブック「住み慣れたわが家で自分らしく生きたい～町田市みんなで支える在宅療養～」をご覧ください。町田市ホームページでもご覧いただけます。

ガイドブックの内容

- ・在宅療養について
- ・在宅療養を支える仕組み
- ・在宅療養を応援するチームについて
- ・在宅療養の例(脳卒中、骨折、認知症) 他



「町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト」について

高齢者がいつまでも住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援するために、2013年から町田市医師会と市が中心となり、在宅療養を支え、医療と介護をはじめとした多職種の連携促進を図り、地域包括ケアシステム(※)の構築を目指す取り組み「町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト(通称:町プロ)」を進めています。

具体的な取り組みとしては、18の医療・介護の職能団体で構成する協議会を開催し、医療・介護連携の方策の検討や、専門職向けの研修会、市民向けの啓発講座の開催等を行っています。

※地域包括ケアシステムとは... 高齢者が要介護状態になっても、可能な限り住み慣れた地域において継続して生活できるように、医療・介護・介護予防・住まい・生活支援の5つのサービスを一体化して、包括的に支援・サービスを提供する体制。



協議会の様子



研修会の様子



市民向け啓発講座の様子

高齢者が安心して在宅療養を始めるには～医療介護専門職座談会

脳卒中や骨折など、病気やけがは誰でも突然起こる可能性があります、それをきっかけに在宅療養が始まる場合があります。その時にどんなサポートを受けられるのか、知っておくことはとても大切です。今回は、町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト(通称:町プロ)推進協議会メンバーで、日々医療や介護に携わっている専門職の皆さんに座談会形式で在宅療養に関するお話を伺いました。

【齋藤(美)氏(司会) 病気やけがで入院し、いざ退院となったとき、患者本人やその家族は自宅での生活に不安を感じると思います。実際に皆さんはどのようにサポートされているのでしょうか。

【五十子氏(医師) 病院では、患者本人が入院した直後から、退院して自宅に戻るための調整を始めます。病院にいる相談員が中心となって、本人とその家族だけでなく、地域の医療関係者や介護関係者と連携を進めています。例えば、かかりつけ医や訪問看護師、ケアマネジャーなどと話し合い、今後の在宅療養の進め方を共有し、介護保険の申請の支援などを行います。

【齋藤(秀)氏(ケアマネジャー) 私た



齋藤秀和氏
鶴川サナトリウム病院居宅介護支援事業所所長。町プロ副会長・町田市ケアマネジャー連絡会会長を務め、市内のケアマネジャーと多職種の連携を強化する活動に尽力している。

ちケアマネジャーは患者本人が退院後の心身の状態に合ったサービスが受けられるように、住宅の改修や福祉用具、ヘルパーの導入準備など、自宅で生活ができる環境を整えていきます。その際、医療的な面については、かかりつけ医と連携して進め、自宅で生活できるようにしていきます。

【川村氏(医師) かかりつけ医は、入院先の医師から情報をもらい、患者さんが自宅に戻っても、継続して健康に関する相談や対応をします。通えなく



五十子桂祐氏
町田病院院長。町田市医師会理事を務め、地域に根ざした医療を目指し、町田の地域医療の発展に尽力している。

なった患者さんには、往診や訪問診療を行うこともできます。また、退院後に病状が急変することもありますので、必要時には入院ができるように地域の病院と連携をとっています。

【五十子氏】 そうですね、私たち病院側も常時受け入れ可能な態勢にしています。

【齋藤(秀)氏】 準備をしても、病院から自宅に生活の場が変わることにより、問題が起こることもあります。例えば、薬が多すぎて飲み忘れが増えたり、



高橋克也氏
いずみ薬局管理薬剤師。在宅支援薬局の薬剤師として在宅訪問に力を入れる傍ら、町田市薬剤師会理事として薬についての講演会などの地域活動を行っている。

入れ歯が合わず硬いものが噛めなくなったり。そのような場合には、かかりつけ医と相談しながら、訪問薬剤師や歯科医師とも連携を図りますよ。

【高橋氏(薬剤師) 訪問薬剤師はかかりつけ医と連携し、患者さんの生活に合った薬の服用を管理しています。処方された薬を自宅へ届けたり、複数の病気を抱えた方に対して、薬を飲みやすくしたりしています。



川村益彦氏
川村クリニック院長。地域のかかりつけ医として活躍するとともに、町プロの会長を務め、地域の在宅療養を促進する活動にまい進している。



奥主嘉彦氏
おくぬし歯科医院院長。訪問診療に尽力するとともに、町田市歯科医師会理事を務め、摂食嚥下(えんげ)について講演会や地域ケア会議などの地域活動に積極的に関わっている。

【奥主氏(歯科医師) 在宅療養における歯科の役割として大事なことは、「日々の食事をおいしく食べていただく」ことです。そのためには、噛めない、飲み込めないなどさまざまなお口のトラブルを解決する必要があります。患者さんの全身状態に応じた適切な治療に加え、虫歯や入れ歯など一般的な歯科診療を自宅で受けることができます。

【川村氏】 在宅療養を始めるときに、私たち専門職が円滑に支援を行うためにも、日頃から皆さんがかかりつけ医

をもち、健康に関することについて相談しておいていただきたいです。

【齋藤(美)氏】 地域の相談窓口である高齢者支援センターには、働きながら親を介護している方や、介護者自身が高齢者だという方からの相談も多く寄せられます。家族が少なからず負担を感じる人が多いと思いますが……。

【齋藤(秀)氏】 在宅療養生活を続けていくには、家族も無理をせずゆとりを

もって介護することが大切です。例えば、短期的に施設に入所するショートステイや、日中に施設でリハビリ等をして過ごすデイサービスなども含め、医療・介護サービスを上手に利用していただければと思います。

【五十子氏】 医療依存度が高く、介護サービスの利用が難しい方には、治療することがなく経過観察だけの方が一時的に入院できる「地域包括ケア病床」が利用できます。市内の病院にもありますので、ぜひ選択肢の一つとしてお考え下さい。

【齋藤(美)氏】 そうなんですね。在宅療養を続けていくには、医療・介護サービスを活用していただき、介護する家族にとっても安心して暮らせるまちづくりを目指したいですね。



齋藤美和子氏
町田第1高齢者支援センター長。町プロ議長を務める。



町田市医師会会長(はやしクリニック院長) 林泉彦氏

町田市の高齢化率は26%を超え、医療や介護の需要が増加することが見込まれます。住み慣れた町田市という地域で、高齢になっても自分らしく安心して暮らし続けられるように、町田市医師会も町プロを通して活動を進めています。市民の皆さんには、町田市の在宅医療・介護についての取り組みをご理解いただき、安心していただければ幸いです。

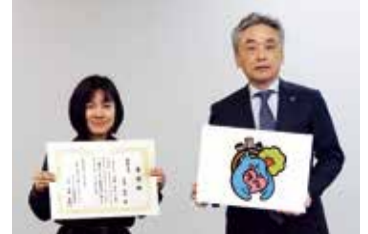


町プロのシンボルマークを作りました!

このたび、町プロの取り組みをより多くの方々に知っていただくため、シンボルマークを作成しました。デザインは町プロ推進協議会の構成団体員から募集し、市民を含む投票の結果、495票(全投票数1207票)を獲得した町田市高齢者施設部会の森田桃世さんの作品に決定しました。応募・投票にご協力いただきありがとうございました。作成したシンボルマークは、今後広く町プロの広報活動等に使用します。



シンボルマーク



左から森田さん、町プロの川村会長